



環境保全の大切さを現場で学ぶ 除伐による森林整備体験を実施

愛知県 株式会社大木家 「第8回『オーギヤの森づくり』」 事業



株式会社大木家
代表取締役社長
大木伸浩さん



2009年から実施している森林保全活動

地域貢献活動の一環として 2009年から森づくりを実施

1946年に愛知県豊橋市で創業し、パチンコ・スロットの
アミューズメント事業を中心に、レストラン、ゴルフ練習場、
不動産、介護事業などでグループの規模を拡大してきた
株式会社大木家。現在、愛知県内の14ホールをはじめ、
静岡、長野、岐阜、滋賀、兵庫県に計21ホールを展開し
ている。

同社では、企業は利益追求の活動のほかに、健全な社
会を作り、維持するための責任を負っているという考えのもと、
様々なCSR活動に取り組んでいる。その根本にあるのは「お
たがいさま」の精神で、貢献される側が一方的に受益者とな
るのではなく、提供する側も何らかのメリットを得られるも
のである関係を目指しているという。

こうした考え方に基づく活動のひとつに、地球温暖化防
止を目指した環境保全活動「オーギヤの森づくり」がある。
この事業は、かつて「穂の国」と呼ばれた東三河流域圏
の森林の保全・育成・再生などを通じて循環型社会の実
現を図る目的で活動を続ける「NPO法人穂の国森づくり
の会」の協力のもとに実施され、一般の方にも参加して
もらい、森林保全のための除伐作業を体験するというもの
である。

2009年11月に愛知県民の森で第1回目が行われ、20余
名が参加したが、以後、毎年秋に実施されている。第3回
目からは豊橋市大岩町内にある国有林で実施しているが、



毎年、秋に森林保全のための除伐作業を実施



参加者も社員のみならず、遊技客や地元高校生など幅が広がっている

第8回目にあたる昨年も、11月13日に開催された。参加者は、
一般参加者を含む36名で、穂の国森づくりの会の4名が
指導にあたった。

当日は、穂の国森づくりの会の森田実事務局長から、除
伐作業の必要性や森林が疲弊している実態を聞いた後で、
のこぎりを使って除伐作業を行った。参加者の一人、同
社に入社が決まっている大学生は、同社の社会貢献活動
に取り組む姿勢や人を育てる熱心さに共感を覚えて入社
を決めたと言うが、「自分も一員として地域活動に参加でき
ることにやりがいを感じる」と語っている。

「おたがいさま」の精神のもとで 様々な社会貢献活動に取り組む

大木伸浩社長の発案によって始まったというオーギヤの
森づくりだが、現在では社員が自ら手作りのチラシを作成
して配るなど、積極的に関わる活動に成長してきた。参加
者も社員のみならず、遊技客やその関係者、地元高校の
生徒など幅が広がっているという。身近にある自然を大切
に守り育てることが、大きな目で見れば地球規模の環境保
全につながっていくに違いない。

このほか同社では、CO2排出量の削減を目指すエコ活
動、認知症サポーターの養成（正社員の97%にあたる305
名が各ホールに在籍）、地域のNPOと連携しての店内へ
の託児ルームの設置、豊橋駅前ホールへの多目的トイレ設
置、「とよはしまちなかスロータウン映画祭」への協力、
「チェンソーアート競技会 in 東栄」への協賛、東日本大震
災被災地への義援金募金、被災地への震災ボランティア
隊派遣、被災した子どもたちを夏休みに豊橋に招く「豊橋
おいでんプロジェクト」への協賛やおみやげの提供、震災
復興支援における「一般社団法人 aichikara」や「NPO
法人日本ホスピタル・クラウン協会」への協力、「24時間テ
レビ」募金協力への参加などの活動に積極的、継続的に
取り組んでいる。